

平成24年度
福島県立医科大学大学院医学研究科
医科学専攻（修士課程）学生募集要項

1 募集人員

専攻・コース	入学定員	募集人員
医科学専攻 { 医科学コース 社会医学・行動科学コース システム医工学コース	10 人	10 人

※各コースの概要はP 6をご覧ください。

2 入試日程

	8月募集	1月募集
出願期間	平成23年7月25日（月） ～ 平成23年7月29日（金）	平成24年1月6日（金） ～ 平成24年1月13日（金）
試験日	平成23年8月26日（金）	平成24年1月21日（土）
合格発表	平成23年9月22日（木）	平成24年2月16日（木）

3 出願資格

出願することのできる者は、次の各号のいずれかに該当するものとします。

- (1) 大学を卒業した者及び平成24年3月までに卒業見込みの者
- (2) 大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び平成24年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成24年3月までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (8) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学大学院において、

その教育を受けるのにふさわしい学力があると認めたもの

- (9) 大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学大学院において、所定の単位を優秀な成績で習得したと認めたもの
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成24年3月31日までに22歳に達するもの

4 出願資格審査

前記3出願資格(8)、(9)、(10)により本学に出願する者は、事前に出願資格の認定が必要となるので、次のとおり申請してください。

(1) 申請期間

8月募集 平成23年7月11日（月）から平成23年7月15日（金）

1月募集 平成23年12月12日（月）から平成23年12月16日（金）

受付時間：午前9時から午後5時まで（土曜日、日曜日を除く。）

郵送による場合は書留郵便とし、申請期間内必着とします。

（封筒表面に「大学院（修士課程）出願資格審査申請書在中」と明記してください。）

(2) 申請書類

① 出願資格(8)及び(9)に該当する者

申請に必要な書類	作成方法
出願資格審査申請書	・本要項添付の用紙を用いてください。 ・必要事項を記入してください。
在学中の学校の 在学期間証明書	・在学中の者のみ提出してください。
在学中の学校の 成績証明書	・在学中の者のみ厳封したものを提出してください。
最終学歴の学校に 関する資料	・入学資格、卒業要件、修業年限、カリキュラム等が記載されている資料を提出してください。

② 出願資格(10)に該当する者

申請に必要な書類	作成方法
出願資格審査申請書	・本要項添付の用紙を用いてください。 ・必要事項を記入してください。
卒業（見込）証明書	・最終学歴として記載した学校等の長が発行したもの。
成績証明書	・最終学歴として記載した学校等の長が発行し厳封したもの。
最終学歴の学校に 関する資料	・入学資格、卒業要件、修業年限、カリキュラム等が記載されている資料を提出してください。
研究活動歴 （該当する者）	・大学、研究所等において研究に従事したことのある者は、本要項添付の用紙に記入の上、提出してください。
主な論文、研究発表等の 写し（該当する者）	・業績として学術論文、著書、研究発表等を有する者は、提出してください。

上記のほか、必要により別の証明書等を求めることがあります。

- (3) 出願資格審査の方法
申請書類により行います。ただし、必要と認めたものについては、口述審査を行います。
- (4) 出願資格審査の結果通知
出願期間までに資格審査結果を郵送により通知します。
- (5) 提出先
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
福島県立医科大学学生課入試係
電話 024-547-1093 (直通)

5 出願手続

- (1) 出願期間
8月募集 平成23年7月25日(月)から平成23年7月29日(金)
1月募集 平成24年1月6日(金)から平成24年1月13日(金)
受付時間：午前9時から午後5時まで(土曜日、日曜日、祝日を除く。)
郵送による場合は書留速達とし、出願期間内必着とします。
- (2) 出願先
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
福島県立医科大学学生課入試係
電話 024-547-1093 (直通)
- (3) 出願書類等
次の書類を本要項添付の封筒に一括して入れて提出してください。

出願に必要な書類	作成方法
入学願書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項添付の用紙を用いてください。 必要事項を記入してください。
写真票	<ul style="list-style-type: none"> 本要項添付の用紙を用いてください。 必要事項を記入してください。
受験票	<ul style="list-style-type: none"> 縦4cm×横3cmの写真(無帽、上半身正面、無背景、出願前3か月以内に撮影したもの)の裏面に氏名を記入し、所定の欄に貼ってください。
志望理由書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項添付の用紙に直接記入するか、本様式に準じてパソコン等により作成してください。
卒業(見込)証明書	<ul style="list-style-type: none"> 最終学歴として記載した学校等の長が発行したもの。 出願資格(2)による場合は、学士の学位授与証明書又は学位授与申請受理証明書を添付してください。 (ただし、出願資格認定時に提出済みの場合は、不要です。)
成績証明書	<ul style="list-style-type: none"> 最終学歴として記載した学校等の長が発行し厳封したもの。 (ただし、出願資格認定時に提出済みの場合は、不要です。)
受験許可書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項添付の用紙を用いてください。 現在在職中の者は、所属長の受験許可書を提出してください。
入学検定料	<ul style="list-style-type: none"> 30,000円 検定料を郵便払込の後、受領した「郵便振替払込受付証明書(お客さま用)」を「入学願書」の所定欄に貼ってください。 なお、払込手数料は、出願者の負担となります。
外国人登録原票記載事項証明書	<ul style="list-style-type: none"> 外国人志願者は外国人登録原票記載事項証明書を添付してください。

受験票送付用封筒	・本要項添付の封筒（長3）に住所、氏名及び郵便番号を明記し、所定欄に350円切手を貼ってください。
----------	---

- (注) ① 出願書類に不備がある場合は、受理しません。
 ② 出願書類に虚偽があった場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
 ③ 一旦受理した出願書類及び入学検定料は、理由のいかんを問わず返還しません。

6 入学者選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験（小論文）、面接及び出願書類の審査を総合して行います。

7 試験期日、時間及び試験場

期 日	科目名等	時 間	試 験 場
8月募集 平成23年8月26日（金）	筆記試験（小論文）	10:00～11:30	福島県立医科大学 医学部
1月募集 平成24年1月21日（土）	面接	13:00～	

8 受験時の注意事項

- 試験当日は、受験票を必ず持参してください。なお、受験票を忘れた場合は、試験本部にその旨を申し出て、再発行を受けてください。また、入学手続きの際に必要なになるので、試験後も大切に保管してください。
- 受験者は、午前9時30分までに試験場に集合して受験に関する指示を受けてください。
- 筆記試験開始後、20分以内の遅刻に限り受験を認めます。なお、この場合試験時間の延長は認めません。
- 携帯電話は、試験会場に入る前に電源を切っておいてください。
- 試験時の机には、受験票、筆記用具及び時計（計時機能だけのもの）以外は置かないでください。

9 合格者発表

8月募集 平成23年9月22日（木）午前10時頃

1月募集 平成24年2月16日（木）午前10時頃

- 本学管理棟2階学生課前掲示板に掲示するとともに、合格者にのみ合格通知書を送付します。
- 大学のホームページにも合格者の受験番号を参考情報として掲載します。
 （ホームページアドレス <http://www.fmu.ac.jp/>）
- 電話等による照会には一切応じません。

10 入学手続

下記に示す手続場所にて、手続期間内に入学手続を行ってください。（詳細は合格者に別途通知します。）

(1) 入学手続期間

平成24年2月20日（月）から平成24年2月24日（金）

受付時間：午前9時から午後5時まで（土曜日、日曜日を除く。）

郵送による場合は書留速達とし、手続期間内必着のこと。

(2) 入学料及び授業料

① 入学料 282,000円（予定額、入学手続時に納付）

② 授業料 年額535,800円（予定額、毎年4月、10月の2回に分納）

※ 入学料及び授業料については変更されることがあります。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

(3) 入学手続場所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

福島県立医科大学学生課医学部教務係

電話 024-547-1095（直通）

11 入学手続上の注意事項

(1) 受理した入学手続に要した書類等及び入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。

(2) 期限までに入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱います。

(3) 入学手続を完了し、入学を許可された者であっても、大学等を卒業（修了）できない場合又は学士の学位を授与されない場合は、入学許可を取り消します。

12 個人情報取扱いについて

出願の際に提出された入学願書等の書類に記載されている氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報、入学者選抜の実施、入学手続き、入学後の奨学・厚生補導及び修学指導に関する業務を行うためのみに利用します。

大学院医学研究科医科学専攻(修士課程)の概要

1 目的

本専攻科は、医療の高度化、学術化の傾向を踏まえ、医学以外の専門分野を学んだ多様な知識や発想を持つ人びとに、集中的に医科学を教授することを目的とします。

平成24年度からは3つのコース（医科学コース・社会医学コース・システム医工学コース）を設け、それらの学術的な知識を統合させ、医学・医療に関連した多彩な分野で活躍できる研究者・教育者と高度な専門職として活躍する人材を育成します。

(1) 履修概要

各コースにおいて、必修・選択必修科目は別表の必修教育科目群から履修します。約2ヶ月程度の必修教育期間の中で配属講座を決定し、選択科目、医学セミナーを受ける中で、修士論文作成に向けた特別研究・特別研究演習を行います。

医科学コース	病理・解剖・生化学・生理学など、実験系を中心とした基礎医学を習得できるように、医学の基盤科目群を必修科目としています。
社会医学・行動科学コース	社会医学や心理学系科目の履修を目的とする本コースでは、社会人を含む様々な立場の方にも受講が可能なように柔軟なカリキュラムが予定されています。
システム医工学コース	近年、急速な展開を遂げている医療工学、システム医学を必修科目とし、同時に医学の基盤科目も履修できるようにカリキュラムが組まれています。

2 構成

(1) 課程及び修業年限

本専攻は、修業年限2年を標準とする修士課程です。

(2) 授業科目

別表1のとおり

3 授業科目の概要

別表2のとおり

4 学位の授与

2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、独創的研究に基づく論文を提出してその審査に合格し、かつ、最終試験に合格した者に対して修士（医科学）の学位を授与します。

5 奨学金制度

大学院学生に対する日本学生支援機構の奨学金制度があります。

また、日本学生支援機構の奨学金を利用できない場合は、本学が独自に設けた奨学金制度も利用できます。

6 授業料等免除制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ、学業成績優秀と認められる学生に対して

は、申請により授業料等を免除できる場合があります。

7 長期履修制度

学生が職業を有しているなどの事情により、研究科の標準修業年限の2年を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的履修を認めることができる長期履修制度を設けています。

別表 1

授 業 科 目

◎必修科目 ○選択必修科目

授 業 科 目		医科学コース	社会医学・ 行動科学コース	システム医工学 コース
必修 教育 科目	医科学概論	◎	◎	◎
	生体構造学	◎	○	○
	生体機能学	◎	○	○
	病態病理学	◎	○	○
	代謝栄養学	◎	○	○
	医学研究方法論	◎	○	◎
	医学研究デザイン論		◎	
	疫学・統計の方法論		◎	
	行動科学		◎	
	バイオ計測工学			◎
	診断・治療工学			◎
システム医学			◎	
専門 研究 科目	地域と環境			
	食物と環境			
	血液と循環			
	免疫と生体防御			
	発生と再生			
	脳とこころ			
	分子と情報			
特別研 究科目	特別研究（研究指導）			
	特別研究演習（研究指導）			
共通必 修科目	大学院セミナー（1科目）			

※選択必修科目

社会医学・行動科学コース：4科目選択

システム医工学コース：3科目選択

授業科目の概要

区分	授業科目	担当教員	概 要
必修 教育 科目 群	医科学概論	コーディネーター 教授 和田郁夫	大学院外の様々な学歴を持つ学生に対して、医学の各分野を学習するために必要とされる生命科学の概念と方法論、さらに現代医学の成り立ちと全体像について概説する。
	生体構造学	コーディネーター 教授 八木沼洋行 教授 和栗聡	人体を構成する細胞、組織、器官の正常構造、およびそれらの形成過程を学び、機能との関連を考察する。
	生体機能学	コーディネーター 教授 挾間章博	人体における様々な臓器(心臓、呼吸器、消化器、腎)の機能を細胞・分子レベルから個体レベルまで学び、それぞれの臓器が生体の生存においてどのような役割を果たしているか理解する。
	病態病理学	コーディネーター 教授 千葉英樹	病気の原因(病因)と生体防御(免疫)の両側面から病変の成り立ちや病気の発症メカニズムを学習する。
	代謝栄養学	コーディネーター 教授 橋本康弘	ヒトの各臓器はタンパク質、糖質、脂質などの栄養素を固有の代謝的経路を持って異化あるいは同化している。この過程は酵素レベル、遺伝子発現レベルなどのさまざまな調節を受けている。この調節機構と代謝経路の概略を学び、ヒトの生理的また病理学的な代謝の背景を理解する。
	医学研究方法論	コーディネーター 教授 小林和人	医学、医療のさまざまな分野で必要となるさまざまな実験技術について、その原理と応用を理解する。代表的な実験技術について、講義と実習を有機的に組み合わせて学習する。
	医学研究デザイン論	コーディネーター 教授 福島哲仁	人の健康状態は、主体である個人と周りの環境との相互作用によって常に変化している。また、ヘルスプロモーションという観点から考えると、健康行動やライフスタイルも、同様に方向付けられている。このような観点から、様々な健康問題、疾病の原因究明とその予防に取り組む研究を行う基礎を学ぶ。 研究の概念を体系として理解するという観点から、様々な健康問題、疾病の原因究明とその予防に関する医学的研究のデザインについて学習する。研究のデザインを考えるにあたって、重要な研究テーマを考え賢明な研究方法を工夫する創造性、研究目標と現実の研究条件のバランスに関する適切な判断、研究を遂行する上での現実感覚などが求められる。本講義及び演習では、研究テーマの設定やそれに対する現実的な研究デザイン、対象の選択、測定方法の選択などの判断力を身につけてもらうことを目的とする。
疫学・統計の方法論	コーディネーター 教授 安村誠司	疫学と統計は、集団の健康状態を把握するための「検査方法」である。疫学はデータの収集、統計は収集したデータの分析を行う方法論であり、これからの実践的な活用について自分でデータを収集して分析を行える基礎知識を学び、技術を身につける。	

	行動科学	コーディネーター 教授 志賀令明	<p>特論:人間はさまざまな思考・行動を取るが、その背景には遺伝要因や発達要因、ないしは社会・文化的要因が複雑に絡み合っている。ここでは、主に思考や感情に与える上記の各要因について触れ、心理学的な視点から「人間行動」の理解を深める。</p> <p>演習:行動科学特論演習:人間行動に係わる気質や性格要因、ないしは生理的な要因について、実際に心理検査や生理的な検査を用いることで、具体的な理解を深める。</p>
	バイオ計測工学	コーディネーター 教授 志村清仁	<p>保健と医療に向けた製品開発の基礎となるのは生体の状態を定量的に把握する計測である。本講義では化学的バイオセンシング、本体イメージング、生体シミュレーション技術について、その基礎の理解と応用の把握を目指す。</p>
	診断・治療工学	コーディネーター 教授 鈴木眞一	<p>本講義では、病気や異常とはどのような状態であるかについて、普遍的、あるいは代表的な病的状態と、その基本的な治療戦略について将来展望も含めて解説する。さらに、本学で取り組んでいる、腫瘍の硬さをリアルタイムに評価する組織弾性イメージングや、微量検体からの遺伝子検査および癌診断、あるいはアイソトープを用いたラジオガイド下のNavigation Surgeryなどの各種先進的医療技術についても紹介する。</p>
	システム医学	コーディネーター 教授 和田郁夫 教授 岡田達也	<p>生命現象を司る極めて複雑な分子メカニズムが明らかになりつつある一方で、古典的な生物学が投げかけてきた素朴な、しかし基本的な疑問の多くはそのまま謎として残っている。本科目では、生命情報を定量的に取り扱い、総括的に解析して現象を予測するシステムバイオロジーのアプローチについて紹介し、さらに全ゲノム・生体成分を対象にした網羅的解析など、生命現象の理解に向けた新たな方法について学習する。</p>
選 択 科 目 群 ／ 隔 年 開 講	地域と環境	コーディネーター 教授 福島哲仁	<p>ヒトの健康は、身のまわりの環境の影響を受け、地域社会における生活環境は重要である。一方、健康問題を解決していくためには、社会環境として地域は重要であり、その中で展開される健康政策、環境行政の整備、さらには法医学の視点からの実践的アプローチが求められる。</p>
	食物と栄養	コーディネーター 教授 橋本康弘	<p>ヒトは活動エネルギーや生体構成成分の材料を食物により得ている。食品中の三大栄養素であるタンパク質、糖質、脂質の代謝過程を中心に、その代謝の相互関係やホルモンによる調節機構を系統的に学ぶ。また、その病理学的意義を学習する。また、その病理学的意義を学習する。</p>
	血液と循環	コーディネーター 教授 挾間章博	<p>本講義では、体液、脈管の構造と機能、心臓の構造と機能、循環系の自律神経調節、病態における循環生理学、循環系における薬理学を学び、細胞・分子レベルから人体機能までの広い血液・循環に関する知識を身につける。</p>

	免疫と生体防御	コーディネーター 講師 関根英治	免疫学は自己と生体に侵入した非自己を(病原体) 認別し、その病原体を生体から排除するために生体防御として機能する。免疫には特異性と記憶を特徴とする獲得免疫と生体に生まれつき備わっている自然免疫がある。これらはお互いに関連し、生体に侵入した病原体を排除する。また、免疫の破綻はアレルギーや自己免疫疾患や免疫不全症をひきおこす。このような免疫学の基礎となる物質、特に抗体等の蛋白質の構造とその遺伝子について学習する。 一方、生体に進入する微生物は宿主の免疫による排除に打ち勝って疾患を起こす。この微生物の機能を学び、寄生体の側からみた生体の防御機構を学ぶ。
	発生と再生	コーディネーター 教授 八木沼洋行	再生医療に注目し、まずその基礎となる器官個体発生のメカニズムについて、分子、細胞、個体レベルで学習する。その上でこの分野の研究手法や医療における実用例、倫理的な問題などを学習する。
	脳とこころ	コーディネーター 教授 小林和人	脳機能の基盤となる分子や細胞の役割、様々な行動を司る脳内メカニズムについて解説するとともに、脳機能の障害と関係する疾患の原因や病態、予防や治療の現状について概説する。具体的には、脳機能の基盤となる分子や細胞の役割、様々な行動を司る脳内メカニズムについて解説するとともに、脳機能の障害と関係する疾患の原因や病態、予防や治療の現状について概説する。
	分子と情報	コーディネーター 教授 本間好 教授 和田郁夫	多細胞生物は、多種多様な細胞を一つの有機社会として統合するシステムを有する。神経系やホルモンなどの液性因子系がその例であるが、神経伝達物質やホルモンの作用メカニズムを分子細胞レベルで理解する。
特別 研究 科目	特別研究(研究指導)		研究指導教員が個々の学生の希望・適性に応じ、研究基盤となるテーマを設定し、教育・指導を行う。 修士論文の研究課題遂行のための基礎となる理論、実験についての体系的な知識・技術の修得を目的とした科目である。学生は、修士論文の作成過程で研究の実際を学習する。
	特別研究演習(教育指導)		研究指導教員の属する研究室でのセミナー等に参加し、最新の技術や知見を理解し、実験計画の立案、実験データの解析、評価、論文作成などに関する実践的研究方法、その他を習得する。
共通 必修 科目	大学院セミナー		本大学院は、特別講義等のセミナーを開催し、必修科目に位置づけている。多分野における最先端の知識を広く学ぶ。内容は概ね次のとおり。